

政策対話（建設部）の概要

1 テーマ

流域治水の取組拡大

2 実施概要

(1) 日 時

令和5年2月14日（火）18時30分から20時

(2) 場 所（実施手法）

長野市生涯学習センター3階 第3学習室（対面開催）

(3) 参加者

9名（学生、河川愛護活動団体、流域治水に関心のある方）

県側：建設部次長、河川課長、河川課職員

3 対話での意見（概要）

区 分	意 見	意見に対する県の考え方	令和5年度予算への反映
1 流域治水の取組みが進んだ暮らし・地域の未来はどんなものか。実現するために大切にしたいことはなにか	<p>【未来像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上・中・下流部が共通して流域治水を理解している ・浸水するような危険な場所に人は住まなくなる ・川が身近に感じられる生活が送れる <p>【大切にしたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所や地形など何が危険なことか知ること ・子どもから大人まで流域治水の意味を知っていること 	<ul style="list-style-type: none"> ・「流域治水」はまだまだ浸透しているとは言い難く、子どもから大人まで意味が伝わるような取組が必要なこと、子ども達でもわかる言葉にかみ砕くことなど、いただいたご意見を参考に、見直してまいります。 ・具体的な広報の方法として、ポスターや標語を募集するなど、参加いただく方法や分かりやすい表現の工夫など、今後の施策の参考にしてまいります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・流域治水推進事業【23,694千円】 ・県有施設への雨水貯留タンクの設置や、民間事業者や県民の皆さまに対するの普及啓発を継続して行い、「流域治水」の重要性を周知し、雨水貯留等の取組促進につなげる事業を推進します。
2 流域治水を大切な人にどう届けるか	<ul style="list-style-type: none"> ・流域治水という言葉そのものがわかりづらく、子ども達がわかる言葉で表現し直すことが必要 ・情報発信の頻度を高める ・直感的に理解できるような取組が必要 ・標語やポスターを募集し全員に取り組んでもらう 		